２０２４年度　社会福祉法人　恵寿会　事業報告

※内容として、各委員会報告と重複する点があります

１．主要事項

令和６年度の経営方針に対する評価及び反省について記載する。

１）　法人運営と未来志向型経営

令和６年度の評価・反省に関しては、障害者支援施設出雲サンホームの改修工事があらゆる面に影響を及ぼしたことに尽きる。

４月に本格始動した工事は当初予定であった１月末を１ヶ月半延長し３月上旬まで続いた。サン・スマイルの移転新築工事とは異なり、ご利用者がいる中での工事であり、全てにおいてご利用者に配慮がされる形で進められた。それでも工事であることに変わりはなく、時には夜間の断水をはじめ２～４時間の停電も複数回行われた。真夏の８月には２階食堂のエアコンが故障し、通常であれば修繕か新規交換となるが、これから工事に着手するエリアであり改修後は同じ場所にエアコンが設置されないため冷風扇をレンタルしての対応となった。

７月からは事務所や法人本部も２階へ移動し、正面玄関も使用出来ないため医務室前の通用口を仮玄関として対応しご家族や来客対応を行なった。内部で生活されるご利用者はもとより、外部からの皆様にも多大なるご迷惑をお掛けしたことと思われる。

法人運営としては、全体として前年比減収減益（経常段階）を見込んでいる。特に収入に関しては、出雲サンホームのご利用者減が著しく障害部門としては４億円を下回った。依然として待機者が殆どいない状態が続き、挽回策をうつ必要がある。一方４年目を迎えたサン・スマイルは堅調に推移し、３億円を超える収入となった。定員を増員したデイサービスをはじめ施設入所も迅速な対応で入所手続きを進め、移転以来の増収を続けている。

出雲サンサン保育園も園児数は安定して定員数を超えた状態である。しかし少子化の波はジワリと押し寄せており市内郡部の保育園では園児、職員ともに不足した状態が恒常化しつつある。昨年あたりから保育士の確保も目に見えて厳しくなっており、先行き動向を少しでも早くキャッチして体制を整えておくことが重要となってきた。

安定してきたサン・スマイルと反対に不安要素の多い出雲サンホームは、改修後のこれからが正念場となる。１フロアでのご利用者の生活と職員の動線変更による効率化など、令和５年度途中から開始したリニューアル会議で議論し実行へ移すことが大切となる。

挽回策の一つとして広報活動担当チームを立ち上げた。その名も“REGIONAL　CONNECT　TEAM”入所事業、通所事業の両方において県内全域への広報により範囲を広げたところからのご利用者確保を目指していきたい。

２）　個人の能力アップと環境作り

職員教育という点においても出雲サンホームの改修工事はプラスマイナス両方の影響があ

ったと感じている。まずプラス面はご利用者が生活をされながらの工事ということから、やむを得ないインフラの停止などはまるで災害時の事業継続に近い状態で、生活を続けるためにどのようにしたら良いか、年間を通じてほぼ全ての職員が個々・チームの両方で考え、実践することが出来た。マイナス面としては、これまできめ細やかに行なっていた入職後間もない職員への対応が工事により現場が日々変わっていく中であまり出来なかったことや指導的職員の育成カリキュラムも計画通りに実施出来なかったことが挙げられる。

サン・スマイル単独としては、看取り業務を開始し令和６年度は６件の看取りを行なった。最初は多くの不安があった職員も回数を重ねるうちに看取りの大切さ、倫理観など学ぶ機会に繋がっている。

出雲サンサン保育園では２０代、３０代の若い保育士が多い中、互いに切磋琢磨しながら日々成長しているのが手に取るように実感出来ている。

当年度、退職となった正職員は出雲サンホーム４名、サン・スマイル１名、サンサン保育園４名、そのうち１名を除いて全員の勤務年数が５年未満であったことから、勤務の浅い職員へのアプローチが希薄になってしまったのは改善しなければならない。

３） サービス提供と地域共生

サン・スマイルにおいてはご家族の面会が毎日のように行われている。時には玄関フロアのガラス窓越しに通話機器を使って、時には相談室で楽しそうな話し声が聞こえている。コロナ禍を経て上手に使い分けながらご家族との面談を楽しんでもらった。また、年間を通じての様々な行事、運動会、敬老会などは出雲サンサン保育園の園児たちがゲストとして招かれ一緒に交流が出来た。食堂スペースには季節ごとの風物詩が飾られ、余暇時間にはご利用者個々が様々な活動を楽しんでおられる。

出雲サンサン保育園においてもコロナ前の状況にほぼ戻った。各行事も地域の皆さまに来園して頂き、また外出についても予定通り行なうことが出来ている。

出雲サンホームは先述のとおり年間を通じての工事があり施設内での活動は制約が多かった。それでも都度、空いたスペースを利用してのご家族との面会も継続しながら機を見てサン・スマイルのデイサービスへ訪問しアミューズメントスペースでの活動を楽しんで頂いた。施設内部での活動に制限があった分、外部へ出掛ける活動に力を注いだ。次年度は改修された広い食堂スペースを活用して、外部ボランティアの皆さまやクラブ活動の再開など地域の皆さまに来所して頂く時間を設けていきたい。

また出雲サンホームは改修によってご利用者も１フロアになったことから防災･防犯対策が変更となる。こうした点も来期の課題として検討をしていく予定である。

２．法人運営会議及び法人企画委員会の評価・反省・課題

令和６年度における各法人企画委員会の活動状況について報告する。

委員会活動においても出雲サンホームの改修工事によって委員会スケジュールが合わず、開催数が減ってしまったものがあった。

苦情解決委員会

出雲サンホームは工事期間中においても第三者委員にお越し頂き、ご利用者の聞取りを行なってもらった。その調査結果、年間を通じての苦情を合わせても工事における苦情は１件も無かった。暑さ寒さ、停電・断水、騒音と生活する環境は非常に辛い面もあったと思われるが、ご利用者の皆さまが本当にご理解頂いていたことが伺える。

サン・スマイル、出雲サンサン保育園ともに苦情件数は５件以内、苦情というよりもむしろ放送機器の不具合やトイレ汚れなどご指摘として頂戴し、苦情になる手前で改善することが出来た。

次年度は出雲サンホームで新しい形態での生活が始まり、ご利用者やご家族にも戸惑いもあることからより丁寧な対応が必要である。

近年、自治体によってはカスタマーハラスメント条例の施行などもあり、苦情との境界を判断出来るような研修参加、マニュアルの検討を行ないたい。

人財獲得委員会

委員会としての活動は２回の開催にとどまった。

参加した就職フェアでは１名の中途採用に繋がり、新卒者３名はいずれもトリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校から施設見学と施設実習を体験した方であり、非常に効率的な採用が出来た。

出雲サンホームには７月と１１月にミャンマーからの留学生がアルバイトにて就労、アシスタント業務をしながら２回もご利用者の特変に気付くなど、ケアスタッフとしての一歩を踏み出している。次年度はサン・スマイルにて２名の留学生を受け入れる予定であり、出雲サンホーム同様の効果を期待したい。

保育士の処遇改善による離職防止効果のためか求人に対する応募も新卒、中途ともに激減しており、対策を検討したい。

人財育成定着委員会

前半までは指導的職員が企画するイベント、研修の実施が出来たが後半は機能不全となってしまった。原因を出雲サンホームの改修工事に負わせるのは良くないが、実質的には度重なるご利用者の居住エリア変更や会議室としての使用可能エリアの制限など、法人全体としての研修を実施する余裕が無かったのも事実である。

次年度、再度仕切り直して指導的職員及び新入職員の研修体系を構築して実施することが急務となっている。

防災対策委員会

法人の防災対策委員会としては開催出来ていない。

４月から事業所ごとの災害時及び感染症発生時の事業継続計画がスタートした。施設単位での訓練や研修の実施が必須となったこともあり、法人ではなく施設の委員会によって行われたことも未開催の要因である。

出雲サンホームにおいては工事期間に断水や停電など、災害時に想定される事象が発生したことから、そのタイミングで備蓄品の使用をするなど、実地訓練も行なうことが出来た。

年度末には本委員会の企画により各施設での机上訓練も実施している。

行政が主導している在宅障害者、高齢者の災害時避難確保計画について、行政側の進捗が良くないが、出雲サンホームは改修によって空き部屋の提供など福祉避難所としての機能が変わってくるため、行政の動きを常に注視したい。

恵寿会ボランティア委員会

神西夏祭りが台風にて中止となった以外、文化祭での大判焼き販売、神西湖一斉清掃、フードドライブ協力など例年通りの参加が出来た。

施設へお越し頂くボランティアの皆さまも、大音量の工事音が響く出雲サンホームにも車椅子そうじのボランティアの皆さま、出雲西高のインターアクト部の皆さまによる喫茶など交流をして頂いた。

先述のとおり、出雲サンホームではもっと多くの地域の皆さまをお呼びして交流を広げていきたいと考えている。

出雲サンホーム　リニューアルプロジェクト（Ｒ－ＰＪ）

いよいよ工事の始まった４月以降も毎月一回のペースで会議を行なった。役職者をはじめ各職種、法人本部も合わせ１０名を超える開催もあった。都度、工事の進捗や確認事項、変更事項などの説明があり、それに合わせてご利用者の生活環境や食事、医療について検討をしていった。

工事中と工事後両方の業務の効率化も検討したことから、完工後もスムーズに移行出来ている。工事が終わった次年度も引き続き開催し、空きスペースの有効利用やご利用者確保についての検討を重ねていく。

リージョナルコネクトチーム（ＲＣＴ）

ご利用者確保のためにリニューアルプロジェクトで発案されたのが広報活動強化。特に出雲サンホームは県内でも数少ない身体障害者療護施設で始まった施設であり、世間一般としての見方は常に施設は満床状態であるという認識である。しかし介護保険優先の昨今では待機者が殆どいなくなってきた現状を踏まえ、県内全域を対象として広報宣伝活動へ出向くことを決定した。

次年度から地域別の担当者を設け、相談支援事業所などへ宣伝を行なう予定として名称をリージョナル（地域）コネクト（繋ぐ）チームとした。出雲サンホーム及びサン・スマイルのご利用者を確保していくために施設の強みを宣伝いくこととする。

３．資料

１）理事会開催状況

開　催　日	理事会	審　　議・報　　告　　内　　容
令和６年６月４日	173 回	1. 令和５年度事業報告について 2. 令和５年度決算について 3. 諸規程の改定について 4. 評議員選任・解任委員の選任について 5. 第 74 回定時評議員会の招集について 報告事項　理事長の職務執行状況について報告
令和６年 12 月３日	174 回	1. 諸規程の改定について
令和７年３月５日	175 回	1. 令和６年度資金収支第一次補正予算について 2. 令和７年度経営方針・事業計画について 3. 令和７年度資金収支予算について 4. 令和７年度資金運用計画について 5. 第 75 回臨時評議員会の招集について 報告事項　理事長の職務執行状況について報告

２）評議員会開催状況

開　催　日	評議員会	審　　議　　内　　容
令和６年６月 21 日	74 回	1. 令和４年度決算について 2. 役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規程の改定について
令和７年３月 18 日	75 回	1. 令和６年度資金収支第一次補正予算について 2. 令和７年度経営方針・事業計画について 3. 令和７年度資金収支予算について

３）法人運営会議開催状況

開　催　日	回	協　議　・　検　討　事　項
令和６年４月17日	１回	1. 令和６年度法人企画委員会担当者について 2. 各施設の運営状況について 3. スケジュール確認（５月、６月）
令和６年５月15日	２回	1. 法人企画委員会審議 2. 各施設の運営状況について 3. スケジュール確認（６月、７月） 4. 第173回理事会議題について
令和６年６月12日	３回	1. 法人企画委員会審議 2. 各施設の運営状況について 3. 夏季賞与及び定期昇給について 4. 処遇改善手当の新設について
令和６年７月17日	４回	1. 法人企画委員会審議 2. 各施設の運営状況について 3. スケジュール確認（７月）
令和６年８月28日	５回	1. 法人企画委員会審議 2. 各施設の運営状況について
令和６年９月18日	６回	1. 法人企画委員会審議 2. 各施設の運営状況について 3. スケジュール確認（10月）
令和６年10月16日	７回	1. 法人企画委員会審議 2. 各施設の運営状況について 3. 正職員登用試験の実施について
令和６年11月20日	８回	1. 各施設の運営状況について 2. スケジュール確認（12月、１月） 3. 第174回理事会議題について
令和６年12月18日	９回	1. 法人企画委員会審議 2. 各施設の運営状況について 3. 年末年始スケジュール確認
令和７年１月22日	10回	1. 法人企画委員会審議 2. 各施設の運営状況について 3. スケジュール確認（３月） 4. 来年度経営方針について
令和７年２月26日	11回	1. 法人企画委員会審議 2. 各施設の運営状況について 3. 来年度事業計画及び予算、今年度補正予算について 4. 第175回理事会議題について 5. スケジュール確認（３月、４月）

特別寄稿

北尾　学氏　・　昌子氏　お二人を偲んで

令和６年５月10日　当法人の初代理事長である北尾昌子氏（会長）が広島県の千代田中央病院にてご逝去されました。御年93歳。

翌、令和７年３月19日　当法人の創業者である北尾学氏が大分県の鈴木病院にてご逝去されました。御年94歳。

共に昭和５年６月生まれ、お誕生日はわずか９日違いのお二人が天寿を全うされました。

昭和54年当時、新たに建設された島根医科大学付属病院の産婦人科に赴任された北尾学氏は、生まれてくる子どもたちの何人かに生まれつきの障害があることを悲しまれ、この子らが生涯どうやって生きていくのだろうと悩まれたそうです。そして身体障害者療護施設の設立を思いつかれました。豪傑で、すぐに誰とでも親しくなられるその性格で様々な人脈を生かし、神西の地に出雲サンホームを設立されました。

その後も平成元年には斐川町に特別養護老人ホーム斐川サンホームを建設され、ほぼ時を同じくして平成２年に広島県の北広島町に医療法人慶寿会を立ち上げ千代田中央病院を建てられました。大学付属病院の教授として教壇に立ちながら、同時に異なる場所での施設建設はいくらバブル景気の真っ只中と言え簡単には出来ません。当時の学氏の熱い想いを知ることが出来ます。

昌子氏も学氏に負けず劣らずパワフルな方であったと聞きます。斐川サンホーム建設時は、建設中の現場に真っ赤なスーツを身にまとって姿を見せられ、現場作業員の方に直接指示をされていたとか・・・。学氏もそうであったようですが、宴の席やお酒は大好きで施設が軌道に乗ってきた頃には代官町で明け方まで飲んでそのまま出勤ということもあったとのこと。

晩年は病気をされてから一線を退かれ、前理事長である北尾慶子氏とお二人で出雲サンホームにお越しになる姿はまるで仏様のように穏やかな表情でした。慶子氏が逝去された後は千代田中央病院にてリハビリをしながらの生活が続きました。最期は現理事長である憲太郎氏に看取られ、逝かれました。

その10か月後、学氏はご自身の地元で晩年も医師としてご活躍された大分県の鈴木病院にてご逝去されました。奇しくもお二人がご尽力され建設された出雲サンホームの初めての全面改修工事の年です。工事引き渡しは３月11日、それを見届けるかのうように学氏は旅立たれました。

今頃は空の上から慶子氏も一緒に三人で出雲サンホーム改修記念パーティーと称して祝杯をあげていらっしゃることでしょう。

改めて今、恵寿会役職員は創設者である方々の思いを胸に、ご利用者・ご家族支援、職員育成、地域との繋がりなど更に一歩前へ進み出さなければならないと感じています。